

それは大塩がそれまでに行ってきた奉行所における正義感に溢れる裁きや、民衆を思う数々の善行を十分に承知していたからであると言われていいます。

要は大塩が民衆を救う為に元役人の立場を顧みず死を覚悟して敢然と幕府に立ち向かった事に幕府嫌いの大坂の町人は「拍手喝采」をしたのでありましょう。

徳川家康は生前に「幕府の敵は西からやってくる！」と恐れていた由であるが、まさしく大塩がその引き金を引いたと言えるのではないのでしょうか

大阪のいぶき 115号」掲載

わが街は 大塩平八郎の史跡」が満載！ 中野 博正

NHKの大河ドラマ「真田丸」は目下好調の由。その関連で、大坂の陣「関連の史跡、戦跡巡りや講演会等が大層賑わっていると。私も講演会等があれば極力出掛けて行く様にしております。

そもそも私が大阪の歴史（特に近世・近代）に興味を持つ様になったのは退職後に「大阪市北区与力町」に転居して来たのがキツカケになっています。与力町」はその名の通り江戸時代に大坂町奉行所の与力・同心が居住していた地域で、言わば当時の「役人官舎ゾーン」の場所です。私が転居した当初は幕末のあの有名な「大

塩の乱」が与力町周辺で勃発した事実を知りませんでした。

暫くして「地元の歴史を勉強する会」に出席する機会があり、その時に初めて知った次第です。

それから俄然「大塩の乱」に興味を持ち、色々調べて行くうちに何と関連する史跡が私のマンション周辺に多数有る事が判明、

しかも徒歩三十分圏内に。早速、暇を見つけて大塩平八郎ゆかりの史跡の「探訪歩き」を開始する様になって行きました。

大塩平八郎の乱が勃発したのは、今から「一八〇年近く前の「一八三七年。丁度、明治維新が始まる三十年前の事です。

大塩は飢餓にあえぐ民を救い、政治腐敗の根源を断とうとして門人の武士・農民などを率いて決起しています。元役人「与力」の大塩が幕府直轄地の「大坂」で公然と幕府に「反旗」を翻したので当時の幕

府と町人はまさに「驚天動地の超ビッグリ！」

大坂城代も「島原の乱」以来「二〇〇年振りの出兵」に大慌てで、しかも大混乱したと記録に残っている様です。この反乱こそが、やがて江戸幕府崩壊へと進展していく遠因になったという歴史家も多いようです。

私なりに探訪した史跡を列举すると①大塩の役宅と私塾「洗心洞跡」②護身用脇差を作った「國重刃物店」創業（二四〇年）③天保八年二月十九日大塩軍が決起の為に集結した「川崎東照宮跡」④行軍開始の合図で放った大砲の弾丸が着弾して炸裂した「街路樹の「槐（えんじゅ）跡」⑤大塩家の菩提寺で平八郎と養子「格之助」の墓の在る「成正寺」⑥平八郎の美質の母親代わりで、厳格な教育を受けた養祖母の大塩清の墓所がある「蓮興寺」平八郎は七歳で父母と死別⑦大塩平八郎終焉地の碑「鞠公園周辺」等々。



大塩軍は朝八時頃に大坂奉行所を目指して、二〇〇名程度の陣容で行軍を開始。市内に火を放ちながら進軍して行ったが夕刻にはあえなく鎮圧。町内の各地に放火した為、後世に「大塩焼け」と呼ばれる大火災が発生し、当時の大坂の五分の一に当たる約二万軒が焼失した由。ところが、民衆は自分達の家屋が焼失しても大塩を何ら恨む事もなく、むしろ「大塩様」と呼んでその徳を称えたと歴史上では語られています。民衆がそこまで大塩を慕う背景は何であったのでしょうか？

